

クリーンセンターが稼働します！



清掃工場（郡元町）の老朽化に伴い、平成24年から整備を進めていた都城市クリーンセンターが完成し、3月1日(日)から稼働します。今回は、同施設の役割と、収集日程の一部変更、都城市指定ごみ袋の価格改定などについて詳しく紹介します。

都城市クリーンセンター



クリーンセンターの特徴

3月1日(日)から燃やせるごみの搬入受け付けを開始する都城市クリーンセンター。同施設は、これまでの清掃工場を上回る処理能力を持ちながら、焼却の際に発生した余熱を利用する発電設備を備えた環境に配慮した施設です。

◎お問い合わせ

環境施設課 ☎23-3319

●場所 山田町山田（山田町かかしの里パークゴルフ場の先）

●敷地面積 2万5,870平方メートル

●処理能力 1日当たり230ト

※115ト×2炉

●発電設備 余熱を利用した蒸気タービン発電

●タービン発電 余熱を利用した蒸気タービン発電

特徴① ビニール、プラスチック類が燃やせるごみに

高温燃焼が可能なストーカ式焼却炉を採用したことで、燃やせないごみとして埋立処理していたビニールやプラスチック、発泡スチロール、靴、皮革製品のごみを完全に焼却できます。

特徴② 発電設備を完備

焼却の際に発生する熱エネルギーで、ボイラー内の水を通した管を温め、高温高圧の蒸気を発生させます。この蒸気でタービンを回転させ、年間約8,500世帯分の電気を発電できます。発電した電気は、施設内で利用するとともに、余った電気を売電することです。施設の維持管理に役立てます。

特徴③ 最先端の環境に優しい施設

焼却炉から発生する排ガスは、まず、ろ過集じん器内のフィルターで、硫黄酸化物やダイオキシンなどの有害物質、細かいチリを取り除きます。その後、触媒反応装置で窒素酸化物を無害な窒素と水分に変えるなど、高度な排ガス処理設備を導入し、排ガスを抑制します。

また、プラント排水は、浄化処理後に施設内で再利用し、施設外へ放出しない方式を採用。周辺環境にも配慮しています。このようにクリーンセンターは、信頼性と安全性に優れた施設です。



燃やせるごみをクリーンセンターへ直接持ち込むときは

搬入できる日時や処分料金は次の通りです。

- 日時 月～金曜日、日曜日の8時30分～正午、13時～16時30分
- ※12月31日～1月3日を除く

●処分料金（税込込み）

生活系ごみ（直接搬入時・1回当たり）	50 詰ごとに2500円
事業系ごみ（1回当たり）	100 詰ごとに5000円
犬・猫などの死がい（1体当たり）	500円

※生活系ごみは、指定ごみ袋で各地区の所定の場所に持ち出せば、市が無料で回収し処理します

一部地域のゴミ収集曜日の変更と、ゴミの出し方

新施設の稼働に合わせて、同じ地区内での月曜日と木曜日、火曜日と金曜日といった収集曜日の混在解消や、ゴミの曜日による収集量の偏りを少なくする目的で、一部の地区でゴミの収集曜日を変更します。詳しくは、1月に配布した「平成27年版ごみ収集カレンダー」で確認ください。

◎お問い合わせ

環境業務課 ☎24-5560
収集曜日の変更がある地区

【本庁管内】

- 姫城地区、五十市地区、妻ヶ丘地区、小松原地区、祝吉地区

【総合支所管内】

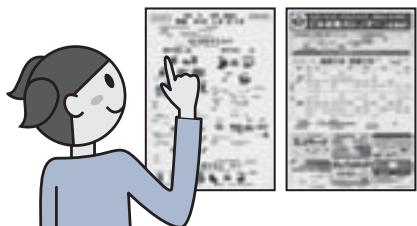
- 山之口地区、高城地区、山田地区、高崎地区

収集曜日を確認ください

収集曜日以外に出されたごみは、次の収集日まで収集されず、中身の散乱の恐れや環境の面でも好ましくありません。居住地区のごみ出し曜日の確認をお願いします。

活用ください！ごみカレンダー

市では、ごみ収集曜日や変更後のごみ分別区分などをまとめた「平成27年版ごみ収集カレンダー」を配布しています。ごみカレンダーは、自治公民館を通して配布しているほか、市役所1階総合案内、各総合支所、各地区市民センター、各地区公民館でも入手できます。



ごみカレンダーには分別方法と収集日程が掲載されています。

ごみ出しは午前8時30分までに

ごみ置場に収集されずに残されたごみ袋を見かけたことはありませんか。残されたごみの中には、収集作業後に出されたごみが含まれます。ごみ収集車は、決まったルート

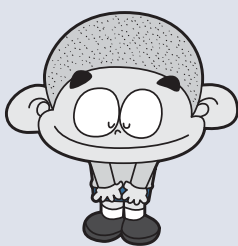
で収集していますが、交通事情や車両故障、収集時の対応、ごみ量が多いなどの理由で、やむを得ず収集時間が遅れる場合があります。確実な収集を行うために、ごみは、午前8時30分までに所定の場所に出してください。皆さんのご理解とご協力をお願いします。

捨てればごみ、分ければ資源

資源となるペットボトルや白色トレイ、空き缶、空きびんなどが混入しているごみ袋が多く見られます。資源物は捨てればごみになりますが、しっかりと分別すれば貴重な資源になります。適切な分別に対するご理解とご協力をお願いします。

清掃工場からのお知らせ

クリーンセンターの稼働に伴い、2月28日(土)11時30分をもって清掃工場を閉鎖します。2月末は混雑が予想されますので、燃やせるごみ（粗大ごみを含む）は、早めに出しましょう。



問 清掃工場 ☎23-0277

今、ごみの減量と再資源化の取り組みが求められています



家庭でできる

ごみ減量の取り組み

ごみ減量のための方法は、簡易包装製品や詰替製品などを購入したり、リサイクルのための分別を徹底したりすることなどが挙げられます。

3月に稼働するクリーンセンターをはじめとするごみ処理施設を酷く使用し、限られた資源を効率的に利用する循環型社会を推進するためには、ごみの減量や分別の徹底など、市民の皆さんの協力が不可欠です。

◎問い合わせ

環境業務課 ☎24-5560

ごみ処理の状況

3月からのごみ分別方法の変更に伴い、月当たりの燃やせるごみ処理量は、約300ト増え約2、375トになると予想されます。これを市民1人当たりに換算すると、月平均約14^キのごみを出していることとなります。

資源ごみの回収状況

過去4カ年の資源ごみの回収量を見ると、直近の2カ年は平均約1万6、700トで、それ以前の2カ年と比較すると約13^{パーセント}減少しています。

インタビュー



下郡元自治公民館長 永田優さん

私たちの地域の取り組みを紹介します

ごみ問題は、市民生活に直結する大切な問題です。私たちの地域では研修を行うなど、ごみ処理に対する意識を高めています。今回、ごみ分別の回収しているペットボトルと白色トレイが、誤って燃やせるごみとして処理されないよう、啓発に努めていきたいと考えています。

都市指定ごみ袋の価格を改定します

平成27年3月1日から、都市指定ごみ袋（大45^{リットル}・中30^{リットル}・小15^{リットル}）燃やせないごみ袋大45^{リットル}の4種類の価格を、税込み205円から、税抜き300円に改定します。

買い占めなど、不要不急な購入を控え、ごみ袋を必要とする人が購入できないことがないよう、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

◎問い合わせ

環境政策課 ☎23-2130

値上げの背景

ごみ袋の販売価格は、製造流通にかかる実費として定めています。現在の製造流通コストは、販売価格を大きく上回っています。これは、原材料の高騰が主な要因で、平成25年度のごみ袋の販売にかかる収支は、約1、700万円の赤字で、平成26年度はさらに増える見込みです。

価格改定による効果

ごみ袋の販売に伴う赤字は全て税金で賄われて、このまま価格を改定しなければ、赤字額が将来に渡って累積していきます。

この負担は、ごみを多く出す人も、減量化に努めている人も一律に同じです。

実費相当額に価格を改定することで、ごみの排出量に応じた負担となり、公平性も確保されます。

市民1人当たりの購入額

市内の家庭から出るごみは、平成25年実績で年間約1、080万袋になります。これを市民1人当たりで換算すると、年間63枚のごみ袋を使用していることになり、500円程度の購入額になります。今回の価格改定により、これまで同様にごみを出し続けた場合、その額は800円程度となり、年間300円程度増えます。

意見交換会で出された意見

市では、今回の価格改定に当たり、各地域で指定ごみ袋制度の意見交換会を開催しました。

【主な意見】

- ・赤字は良くない。税金を使うのは不公平だ
- ・袋が安いからぜひたくに使う
- ・ごみ袋が安いから、ごみ減量の意識が低下しているのでは
- ・生活に直結するものなので、上げ幅については慎重に検討すべき

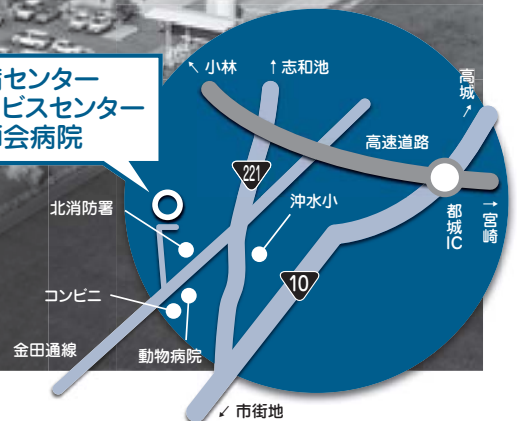
新しい市郡医師会病院などが 今春、太郎坊町に 移転開院します!

都城夜間急病センター
都城健康サービスセンター
都城市郡医師会病院

本市と三股町、都城市北諸県郡医師会の三者の共同事業として整備を進めてきました新しい都城市郡医師会病院などが、この春オープンします。

今回は、同施設の概要や役割などを紹介します。

◎問い合わせ 健康課 ☎23-2765



3施設を一体的に整備

現在、大岩田町にある都城救急医療センターと都城健康サービスセンター、都城市郡医師会病院を太郎坊町へ新築移転します。3施設を一つの建物内に整備することで、広域的な高次救急医療拠点としての機能充実が図られます。

災害に強く、医療機能が充実

新施設は、免震構造となっていて、大規模地震で被災した場合にも、いち早く医療機能を発揮できる災害に強い施設です。屋上にはヘリポートを設置。宮崎大学医学部附属病院のドクターヘリと連携した救急医療も行えます。

これまでの診療科目に加えて整形外科や消化器内科、リハビリテーション科の新設を予定。また、入院患者の受け入れ体制の充実を図るため、病床数も現在の172床から220床（一般病床）へ増床します。

救急医療センターを「夜間急病センター」に改称

現在の救急医療センターは、夜間の急病患者のための受診施設です。しかし、利用者の自己都合で

安易に受診する「コンビニ受診」が問題となっています。

このため、新センターは施設の役割をより明確にし、利用者皆さんに適正な受診を心掛けてもらうため、名称を都城夜間急病センターに改称します。なお、診療科や診療時間は今までと変更ありませんので、市民の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

※移転開院後は、3施設とも電話番号が変更になる予定です。移転作業に伴い、現施設での休診期間が生じる可能性もありますので、開院日などが決定次第、広報紙などでお知らせします

新施設の概要

●都城夜間急病センター
診療科：内科、外科、小児科 診療時間：午後7時～翌朝7時
●都城健康サービスセンター
人間ドックなどの各種健診、臨床検査
●都城市郡医師会病院
診療科：内科、循環器内科、外科、脳神経外科、小児科、放射線科、麻酔科、形成外科、救急科、整形外科（新設）、消化器内科（新設予定）、リハビリテーション科（新設予定） 病床数：220床（一般病床） 屋上ヘリポート新設